



その時のために

九州北部をおそった豪雨災害。過去何度か山口県も被災していますし、この度は、臨時休校など、本校も少なからず影響を受けました。街ごと飲み込んでいく濁流のすさまじさや警察・消防や自衛隊の方々による被災者救出の様子を映し出すテレビに釘付けになった人も多かったはずです。

新潟県中越地震による土砂崩れ事故で、土砂に巻き込まれた車の中から92時間ぶりに救出された当時2歳の優太君のことについて思い出しました。平成16年といえば、13年前、今は皆さんと同じ年齢になっているのでしょうか。

ニュースで耳にしたのですが、優太君の救出後、まだ車の中に残っている優太君のお姉ちゃんを救出するために、レスキュー隊の人たちが、自ら志願して徹夜、不眠不休で救出作業を行っているということでした。確か、機械を使って調査したところ、心臓の音は聞こえなかったというから、生存は絶望視されていたのでしょうか、しかし、レスキュー隊の人たちは、志願して徹夜の作業をしたというのです。

このニュースを聞いたとき、私は、当時の学校で、夏休みに行っていたインターンシップの評価表に記されていた防府市消防本部の担当者の方のメッセージとその厳しい訓練風景を思い出しました。

「私たちが行く現場には、困っている人、助けを求めている人を助けに行きます。それを想定した訓練だから笑うこともできないし、いい加減な気持ちでやれば怪我をします。「楽しい」とは、ほど遠いかもしれませんが、消防署の職場体験を通し、生命の尊さを多くの生徒に考えてもらえたらと思います」

強烈な使命感、誇りを感じました。このレスキュー隊の人たちが、上司に嘆願する風景が目につかぶようです。「この時のために我々はこれまで必死になって訓練してきた。準備をしてきた。今、やらずしていつやるんだ。お願いします。もう少し作業を続けさせてください。」ってね。さて、我々は「その時」に対する準備は万全だろうか。あなたにはその時がはっきりと見えていますか？

野球部のみなさんにとっては、一つの「その時」が終わりました。最後まであきらめないゲーム中の姿からは、「その時」のために、努力を重ね、苦しさを乗り越えてきた「それまで」を感じました。試合後のすがすがしい姿からは、彼らの「これから」を感じました。

夏休みをしっかりと

桜が風に少しずつ散っていたさわやかな4月から、気がつけばジッとしていても汗ばむ季節。でも、心を落ち着けて道ばたの木々に目を移してみましょう。緑が鮮やかな初夏。あつついな～なんて、やる気をなくしているのはきっと人間くらいなものでしょう。草木も動物たちも暑い日差しの中で、精一杯生きています。むしろ、この暑い夏こそ、多くの生物にとって生命力溢れる季節であり、多くの生物は来るべき秋・冬の蓄えのために生き活きと活動している、そんな季節と言えるかもしれません。

私達もこの地球上で生活する生物。私達にとっても、夏というのは大切な季節なはず。そして、長い人生を季節に例えるなら、高校時代そのものが、将来の大いなる飛躍に備えてしっかりと力をつける”夏”と言えるでしょう。君達にとって、この”夏”が将来のための大きな価値ある”夏”となることを期待しています。

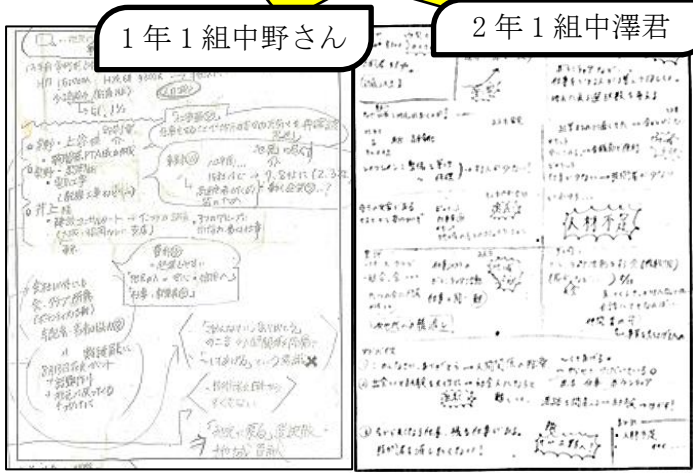
先日、遊泳中の高校生が水難事故にあうという痛ましい出来事がありました。安全にだけは十分に気をつけて、2学期元気な姿でお会いしましょう。



7月12日に開催した地元若手経営者との交流会では、みなさん、いろいろなことを考えるきっかけになったようですね。同じ話を聞いても、どうとらえるかでその価値は大きく変わってきます。そのメモ用紙、感想の中から、「さすが!」と思ったものをいくつか紹介します。

- 年賀状の印刷を頼まれたときに、元気にしているかどうか分かるというのがとても良いことだと思った。地元の人を家族だと思っているような気がして、温かい気持ちになった。(1-2 工藤)
- 地元を大切にすることで、地元への思いが強くなり、今まで以上に地元を好きになり、という循環が生まれると思う。なので、地元で仕事をしたいと思った。(1-2 向野)
- 高齢者の方の考えや経験は若者以上だが、それを行動に移すとなると若者の力が必要。だから、私たちも「してあげる」という考えではなく「させていただく」という考えをもち、高齢の方の考えなどを次につなげていきたいなと思った。(2-1 石井)
- 電気が通らなくなった時、すぐに駆けつけることができる会社が少なく、地元で貢献したいからという理由がとても素敵だと思った。会社を作る目的がお金を稼ぐことなどではなく、地元・地元の人のために仕事をやっていてすごいなと思った。(2-1 林)
- 労働力の大半を高齢者が担っており、高齢者の方々の負担を思うと自分も地元の力になりたいと思った。今まで感じる事がなかったふるさとがなくなって寂しさを実感し、改めて故郷の大切さを感じることができた。また、どのようにしたら、残していけるのか考えるきっかけになった。今、私たちが見ている景色は当たり前ではないのだと心に刻み、積極的に地元の行事に参加したり、手伝ったり等「今」私ができることをやっていきたいと思った。(2-1 藤井)
- 地域の少子高齢化、人口減少について仕方ない問題だと思っていた。しかし、どうにかしないと行けない問題、もっと多くの人在这らについてもっと深く考えなければいけないと思った。(3-1 村田)
- 人も少なく、お店が遠いというデメリットはあるが、人と人との距離が近く、いろいろなことを相談できたりするメリットもたくさんあると思う。(3-1 村上)
- 人とのつながりを大切にすること。ボランティアからでも人とのつながりはできてくるし、自然と仕事の幅も広がってくると思う。(3-1 峯)
- 豊北高校の名前もなくなる。そんな今こそ、地域のために何かできるというのはとても良いことだと思うし、自分も今通っている豊北町や地元の豊田町のために何かしたいと思った。(3-2 高井)

これぞ、「メモ力」!



これぞ、「復元力」!

重要だと思った言葉を拾い出し、メモし、そのメモを元に復元していく力を身に付けましょう。

今日、3名の若手経営者の方がご来校し、豊北町企業をめぐって、今後の課題はどんなこと、すべきことを教えてくださいました。現在の豊北町の高齢者割合が最も多いことを知り、これは驚きました。単純に考えれば、豊北町に住んでいる2人に1人が65歳以上の高齢者であるということになります。その一方で、地元に企業をめぐって、地元に貢献したり、思いがけず地元を盛り立てたいと、若い世代も感じています。

そのお話を聞いて、メリット・デメリットがあると思います。デメリットとしては、人口が少ないために、利用者数が少なかったり、仕事の見つけが難しくなるということがあると思います。一方でメリットとして、地域の人が寄り添ってサポートしたり、1つ1つの仕事を親切かつ丁寧に行ってくれるという点があります。メリット・デメリットがあるが、仕事は成り立ちます。デメリットをどうメリットにできるか工夫しているのが、学ぶことができました。

私は部活動の関係でボランティアをさせていただく機会があります。実際、下関にボランティアのニーズがあるという話を聞いて、まずは夏休み前に近くのボランティアが予定されているので、1つ2つ参加したいと考えています。そして、私の目標である「ボランティア100時間」を目指してがんばりたいです。

今回の講演会では特に次の3点が心に響きました。1つ目は、「自分がやらせていたという責任を持つこと」です。これから、学校生活や社会に出た時にぜひ心に明記しておきたいです。2つ目は「出会い」と「経験」です。目線から様々な経験をしていくことで、将来働くようになった時に臨機応変に行動できるようにしておきたいです。また、高齢者の方々がわかりやすくしてほしいです。そのようなことに関連するボランティアに参加することで、高齢者との関わりを大切にしたいです。そして、私も地域に貢献したり、貢献できる人になろう、成長していきたいです。

私はこの地元、豊北町が好きです。そのため会社の社長さんが冒険でやってきたり、パネラーの方のお話にもあった過疎化、少子高齢化、職人の不足、技術者の不足、お店の減少などこの豊北町の課題は多岐にわたる問題について考えたいと胸が痛くなりました。私も前々から地元で何か役に立つ人になりたいと考えていました。これは具体的に何をしたらいいのかなかなか分からず、漠然とした思いのままです。なのでまず始めに、福井県内各自治体やボランティア、職人はありますし、地元の役に立ちたいと思うのなら、ボランティア活動や経営者の方から話を聞いてみるのがいいのかなと思います。そしてその中で一番大切なのは経営者の方々に共通して地元を大切に思う気持ちではないかと感じました。私は今日まで漠然とした思いで、校長先生のお言葉を借りて自分の今の現状、地元の中心の位置は学校の授業で道徳指導を通じて少しずつわかってきてはいたが、そのお話を聞いて、この地間はより明確にしたいと思いました。そして次に出会い、ボランティアに関するお話が面白かったです。今回の同年代の人との出会いは、私の話で「社会に出てくると仲間づくりが大変」といって同年代の人との出会いは、多岐にわたる人に出会って行くこととおっしゃっていました。私は同じく多岐にわたる人に出会って行くこととおっしゃっていました。私は同じく多岐にわたる人に出会って行くこととおっしゃっていました。私は同じく多岐にわたる人に出会って行くこととおっしゃっていました。

2年1組西村さん

2年2組川部さん